

臨床研修到達目標の見直し について

聖路加国際病院
福井次矢

到達目標『見直し』

決定

医師臨床研修制度の到達目標・評価の在り方については、平成16年度の必修化以降、見直しはされてこなかった。



平成25年12月にまとめられた医道審議会医師臨床研修部会報告書において、次回の改定(平成32年度研修より適用予定)時には、臨床研修の到達目標と評価について見直すこととされた。

到達目標『見直し』

体制

医道審議会医師分科会医師臨床研修部会



医師臨床研修の到達目標・評価の在り方に関する
ワーキンググループ（平成26年～）

福井次矢、大滝純司、片岡仁美、金丸吉昌、神野正博、小森貴、清水貴子
高橋弘明、田中雄二郎、中島豊爾、伴信太郎、古谷伸之、前野哲博



ワーキンググループで検討する原案作成のための
研究班（平成26年～）

臨床研修の到達目標、方略及び評価

(承認:平成29年3月23日医道審議会医師分科会医師臨床研修部会)

臨床研修の基本理念(医師法第一六条の二第一項に規定する
臨床研修に関する省令):現状のまま

到達目標

実務研修に関する方略

到達目標の達成度評価

修了基準

臨床研修の基本理念

(医師法第16条の2第1項に規定する医師臨床研修に関する省令)

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

I 到達目標

医師は、病める人の尊厳と公衆衛生に関わる職業の重大性を深く認識し、望ましい医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、医師としての基本的な価値観を自らのものとし、基本的診療業務を遂行できる横断的な資質・能力を修得する。

到達目標

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

医師としての社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、変化する社会と限りある資源に配慮した公正な医療の提供と公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の意向や自己決定権を尊重しつつ、患者の苦悩・苦痛の軽減と福利の改善を最優先の務めと考え行動する。

3. 人間性の尊重

個々人の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って、患者や家族に接する。

4. 自らを高める姿勢

医師としての自らの言動を常に省察し、資質・能力の向上に努める。

到達目標

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳と生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、適切な管理方針に準拠する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

到達目標

B. 資質・能力

2. 医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の中で必要な知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 主な症候について、鑑別診断と初期対応ができる。
- ② 患者に関する情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮して臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

到達目標

B. 資質・能力

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書、適切かつ遅滞なく作成する。

到達目標

B. 資質・能力

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族の直面している課題や苦悩を身体・心理・社会的側面から把握する。

到達目標

B. 資質・能力

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

到達目標

B. 資質・能力

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応ができる。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）の重要性を理解し、実践し、自らの健康管理に努める。

到達目標

B. 資質・能力

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

到達目標

B. 資質・能力

8. 科学的探究

医学と医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学医療の発展に寄与する。

- ① 医療上湧きがってきた疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

到達目標

B. 資質・能力

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために常に省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 早い速度で変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職を教え、共に学ぶ。
- ③ 国内外の政策や医療上の最新の動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。）を把握する。

到達目標

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、単独での診療を任せることができる。

1. 一般外来

症候などの臨床問題を適切な認知プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患のフォローアップができる。

2. 病棟

入院患者の一般的・全身的な診療とケアができる。

3. 初期救急

頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対応できる。

4. 地域医療

地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健に関わる種々の施設や組織と連携できる。

経験症候:29症候

下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ
頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害
胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便
嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、熱傷・外傷
腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下
排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、抑うつ
妊娠・出産、成長・発達の障害、終末期の症候

経験疾病：25疾病

下記の疾病を有する患者の診療にあたる。

脳梗塞・脳出血、脳動脈瘤・くも膜下出血、認知症
心筋梗塞、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎
急性上気道炎、気管支喘息、COPD、胃癌、消化性潰瘍
胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全
高エネルギー外傷・骨折・捻挫、糖尿病、脂質異常症
気分障害、統合失調症、依存症（ニコチン依存症・アル
コール依存症・薬物依存症・病的賭博を含む。）

III 到達目標の達成度評価

- 個別の分野・診療科のローテーション終了時に、研修評価票I、II、IIIを用いて評価し、研修評価票を研修管理委員会にて保管する。
- 少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会の責任のもと、研修医にフィードバックする。
- 2年次研修終了時に研修管理委員会で、それまでに保管されている研修評価票I、II、IIIを用いて修了判定を行い、記録を判定票（作成予定）に残す。

研修医評価票 I (案)

「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」

「B. 1. 医学・医療における倫理性、4. コミュニケーション能力、5. チーム医療の実践」
に関する観察記録・コメント

研修医名： _____

研修分野・診療科： _____ (基幹型病院 協力型病院 その他)

研修期間： _____ 年 _____ 月 ~ _____ 年 _____ 月

評価者名： _____ 医師 他職種指導者 (職種名 _____)

記載日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

	心配	ふつう	安心	評価 できない	印象に残った エピソードがあれば 記載してください
A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 医師としての社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、変化する社会と限りある資源に配慮した公正な医療の提供と公衆衛生の向上に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
A-2. 利他的な態度 患者の意向や自己決定権を尊重しつつ、患者の苦悩・苦痛の軽減と福利の改善を最優先の務めと考え行動する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
A-3. 人間性の尊重 個々人の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って、患者や家族に接する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
A-4. 自らを高める姿勢 医師としての自らの言動を常に省察し、資質・能力の向上に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
B-1. 医学・医療における倫理性 診療、研究、教育に関する倫理的問題を認識し、適切に行動する。 (人間の尊厳、患者のプライバシー、倫理的問題の認識、利益相反、透明性)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
B-4. コミュニケーション能力 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係を築く。 (身だしなみ、礼儀、態度、分かりやすい説明、患者の身体・心理・社会的側面の把握)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
B-5. チーム医療の実践 医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。 (チーム構成員の役割理解と情報共有)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

研修医評価票Ⅱ（案）

「B. 資質・能力」に関するマイルストーン

研修医名： _____

研修分野・診療科： _____

研修期間： _____年____月 ~ _____年____月

評価医師名： _____

記載日： _____年____月____日

レベルの説明

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
臨床研修の開始時点で期待されるレベル。モデルコア・カリキュラムの到達目標相当	臨床研修の中間時点で期待されるレベル	臨床研修の終了時点で期待されるレベル	上級医として後進を監督できるレベル

1. 医学・医療における倫理性						
診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。						
下位基準	レベル1 (コア・カリキュラム)	レベル2	レベル3 (研修終了時で期待されるレベル)	レベル4	観察 機会 なし	
① 人間の尊厳と生命の不可侵性を尊重する。	□医学・医療の歴史的な流れ、臨床倫理や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概観できる。 □患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントとインフォームドアセントなどの意義と必要性を説明できる。 □患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を理解した上で適切な取り扱いができる。	□ 尊重の念を示すことができる	□ 十分に尊重し、それに基づく行動ができる	□ モデルとなる行動を他者に示すことができる		
② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。		□ 基本的な配慮と義務を果たすことができる	□ 十分な配慮と義務を果たすことができる	□ モデルとなる行動を他者に示すことができる		
③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。		□ 倫理的なジレンマの存在を認識できる	□ 関係者と協議しながら必要な判断と対応ができる	□ 相互尊重に基づいて多面的に判断し、適切に対応できる		
④ 利益相反を認識し、管理方針を遵守する		□ 利益相反とその管理方針を認識できる	□ 利益相反の管理方針を遵守できる	□ モデルとなる行動を他者に示すことができる		
⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。		□ 透明性確保と不正防止の必要性を認識できる	□ 透明性確保と不正防止を実行できる	□ モデルとなる行動を他者に示すことができる		
総合評価 (必須)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コメント：						

2. 医学知識と問題対応能力								
発展し続ける医学の中で必要な知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。								
下位基準	レベル1 (コア・カリキュラム)	レベル2	レベル3 (研修終了時に期待されるレベル)	レベル4	観察 機会 なし			
① 主な症候について、鑑別診断と初期対応ができる。	<input type="checkbox"/> 必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 講義、教科書、検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。	<input type="checkbox"/> 指導医の下で、基本的な鑑別診断と初期対応ができる	<input type="checkbox"/> 独立して、基本的な鑑別診断と初期対応ができる	<input type="checkbox"/> 鑑別診断と初期対応について後進を指導できる				
② 患者に関する情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮して臨床決断を行う。		<input type="checkbox"/> 指導医の下で、患者に関する情報を収集し、患者の意向に配慮した臨床決断ができる	<input type="checkbox"/> 独立して、患者に関する情報を収集し、患者の意向に配慮した臨床決断ができる	<input type="checkbox"/> 患者に関する情報の収集と患者の意向に配慮した臨床決断について後進を指導できる				
③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。		<input type="checkbox"/> 指導医の下で、保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案できる	<input type="checkbox"/> 独立して、保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行できる	<input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画の立案と実行を後進に指導できる				
総合評価 (必須)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コメント:								

研修医評価票Ⅲ（案）

「C. 基本的診療業務： 一般外来・病棟・初期救急・地域医療」

に関する観察記録・コメント

研修医名： _____

研修分野・診療科： _____（基幹型病院 協力型病院 その他）

研修期間： _____年____月 ~ _____年____月

評価医師名： _____

記載日： _____年____月____日

任せられるレベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	印象に残ったエピソードがあれば記載してください
	指導医の直接の監督の下でできる	指導医が求めに応じて対応できる状況下でできる	ほぼ単独でできる	後進を指導できる	
C-1. 一般外来 症候などの臨床問題を適切な認知プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患のフォローアップができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
C-2. 病棟 入院患者の一般的全身的診療とケアができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
C-3. 初期救急 頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対応できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
C-4. 地域医療 地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健に関わる種々の施設や組織と連携できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

臨床研修到達目標と医学教育モデル・コア・カリキュラムの関係について(案)

医学教育モデル・コア・カリキュラム(卒前)	臨床研修の到達目標(卒後)
<p>医師として求められる基本的な資質・能力</p> <p>1 プロフェッショナリズム</p> <p>2 医学知識と問題対応能力</p> <p>3 診療技能と患者ケア</p> <p>4 コミュニケーション能力</p> <p>5 チーム医療の実践</p> <p>6 医療の質と安全の管理</p> <p>7 社会における医療の実践</p> <p>8 科学的探求</p> <p>9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p>	<p>医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)</p> <p>1 社会的使命と公衆衛生への寄与</p> <p>2 利他的な態度</p> <p>3 人間性の尊重</p> <p>4 自らを高める姿勢</p> <p>資質・能力</p> <p>1 医学・医療における倫理性</p> <p>2 医学知識と問題対応能力</p> <p>3 診療技能と患者ケア</p> <p>4 コミュニケーション能力</p> <p>5 チーム医療の実践</p> <p>6 医療の質と安全の管理</p> <p>7 社会における医療の実践</p> <p>8 科学的探求</p> <p>9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p>

キャリアを通じた研修目標の共通化

卒前教育

モデル・コア・カリキュラム

卒後臨床研修

到達目標

専門医養成

日本専門医機構による方針

生涯教育

日本医師会生涯教育カリキュラム